

発行 城南区人権啓発連絡会議  
事務局 城南区役所生涯学習推進課  
TEL 833-4044

### 第23回 城南区人権を考えるつどい

#### かかわらなければ、

#### 知ることはなかつた

シンガーソングライター 沢知恵さん

第二十三回城南区人権を考えるつどいが平成二十七年七月十日(金)城南市民センターにて開かれました。城南区人権啓発連絡会議と城南区役所が主催し、シンガーソングライターの沢知恵さんをお招きし、人権コンサート「かかわらなければ」が行われました。当日は快晴に恵まれ、四百人を超える参加者で会場はにぎわいました。

#### 沢さんの多感な子ども時代

暗い照明の中、「アメージンググレース」の心に響く歌声でコンサートは始まりました。自己紹介では宣教師である父母に連れられ、韓国やアメリカなど世界各地で過ごし、人と違うことは素晴らしい、面白いと楽しんで育ちました。小学三年生の頃、日本に戻り、あまり人と違う方がいいという空気を子どもながらに感じ、カルチャーショックを受けたそうです。

#### 詩に二筋の希望を見出すこと



美しい歌声で参加者を魅了した沢さん

大島青松園とかかわらなければ、知ることはなかつた詩人「塔和子さん」について話し出しました。塔さんは十三歳でハンセン病を患い大島青松園へ連れてこられ、二年前、八十三歳で亡くなるまでの七十年にわたり家族や故郷から隔離されての生活

を余儀なくされました。他の入所者と同様に、家族への就職差別や結婚差別を避けるため改名させられ「塔和子」に。絶望の中から一筋の希望を見出そうと詩をつむぎ、かかわりを求めてラジオやテレビへ投稿を続け、高見順賞を受賞されました。昨年、長い苦悩の末、塔さんの遺族は故郷の墓に生まれた時の名前を迎えようと決心しました。ハンセン病患者で故郷の墓に帰れる人はほとんどいません。ましてや本名で…。

#### 参加者の声

●自分の事ばかりの世界にいたことを痛感し、恥ずかしくなりました。みんなが幸せにならないと本当の自分も幸せになれないと感じました。

#### ハンセン病患者の方々の苦悩

●大変な人生を送った方々、でも人つて強い底力があるんですね。残りの人生、人の役に立てればと…。

●今、誰かのためにかかわっている事が、大切なことなのだと思いつつ聞き続けながら、楽しく生活していこうと思えました。

●人間の出会いにかかわりを音楽に変えて伝える事のすばらしさを知りました。人と人とのかかわりの中でスマイルのすばらしさを知りました。

#### 平成二十七年

### 城南区人権啓発連絡会議の活動

#### 総会・委員研修会

城南区人権啓発連絡会議の総会を六月二十二日(月)、城南市民センターで開催。役員を選出、二十六年年度の事業報告、二十七年年度の事業計画を審議し、承認されました。

●総会終了後、同和対策審議会が答申を出して今年で50年の節目を機に法務省が制作したDVD「同和問題く過去からの証言、未来への提言」(DVD)からの証言、

#### 街頭啓発

十一月二十五日(水)に、城南区役所地下鉄別府駅周辺やサニー七限店、レッドキャベツ友丘店の駐車場周辺

の委員など三十三名が、寒空の中、買い物客や通行人に人権尊重週間の周知や市民の集い(城南区会場)への参加を呼びかけました。

#### 胸の泉に

塔和子

かかわらなければ

この愛しさを知るすべはなかつた  
この親しさは湧かなかつた  
この大らかな依存の安らいは得られなかつた  
この甘い思いや  
さびしい思いも知らなかつた

人はかかわることからさまざまな思いを知る

子は親とかかわり  
親は子とかかわることによって  
恋も友情も  
かかわることから始まって

かかわったが故に起こる

幸や不幸を  
積み重ねて大きくなり  
くり返すことで磨かれ  
そして人は

人の間で思いを削り思いをふくらませ  
生を綴る

ああ  
何億の人がいようとも  
かかわらなければ路傍の人

私の胸の泉に  
枯れ葉いちまいも  
落としてはくれない

6/22 (月)

◆総会  
・役員を選出  
・平成26年度事業報告  
・平成27年度事業計画  
◆委員研修  
・同和問題く過去からの証言、未来への提言(「DVD」)

7/10 (金)

◆城南区人権を考えるつどい  
「かかわらなければ」ピアノ弾き語りコンサート」シンガーソングライター 沢知恵さん

9/29 (火)

◆第1回運営委員会  
・人権尊重週間の街頭啓発の取り組みについて  
・城南区人権を考えるつどいの結果について

11/25 (水)

◆人権尊重週間街頭啓発  
・福岡市人権尊重週間行事周知及び「市民の集い」PR(チラシ等配布)

12/9 (水)

◆人権を尊重する市民の集い  
・実践報告  
「地域で暮らす人々とともに歩んできたまちづくり」  
・障がい福祉サービス事業所  
・障がい福祉サービス事業所  
・草の家  
・講演「中村久子伝」生きること、生かされていること  
・講師 吉優 一龍斎春水さん

2/1 (月)

◆第2回運営委員会  
・平成28年度総会に付議する事項について  
・広報紙「こころ」の発行について

3/15 (火)

◆広報紙発行  
・城南区人権啓発連絡会議だより「こころ」第26号発行  
(区内全戸配布)





# 第44回人権を尊重する市民の集い

平成二十七年十一月九日(水)、今年で四十四回目になる「人権を尊重する市民の集い(城南区会場)」が城南市民センターで開催されました。当日は穏やかな晴天のもと、四百五十人が参加し、実践報告と講演に聞き入り、様々な人権問題に思いを馳せました。

## 「中村久子伝」 「生きること、生かされていること」

講師・声優 一龍斎春水さん

講師の春水さんが登場するや「待つてました」の客席の声。まず、自己紹介から始まりました。本名は「麻上洋子」で、講師や声優として活躍されています。主なるところでは「宇宙戦艦ヤマト」の森雪や「シティーハンター」の野上冴子などの声をされ、話の合間に披露。会場も大いに盛り上がりました。

### 中村久子さんって、どんな人？

ヘレンケラーは、皆さんよくご存知ですが、目が見えず、耳が聞こえないなど、三重苦に苦しみながらも克服し、世界各地で身体障がい者の教育や福祉に尽力した女性です。その彼女が「私より不幸な人、私より偉大な人」と激賞した女性です。

久子さんは明治三十年に飛騨の高山で生まれました。大変寒さが厳しい所で、三歳の時に左足の甲が凍傷にかかり、そのうち両手両足に突発性脱疽の病として拡がりました。放っておくと体全体に壊死が広がるのと医師の話に、家族は深く悩みますが、両手は手首から、両足はかかと部分から切断しました。

七歳の時に父が亡くなり、祖母と母の三人で暮らし始めます。二人は彼女に障がいがあっても甘やかさず、一人で生きていけるように厳しく育てました。指示した



笑いあり、涙ありの熱演をする一龍斎さん

自分で生きているのではない。生かされているのだということ。どんなところにも必ず生かされていく道がある。いかなる人生にも決して絶望はありません」と語っています。

波乱万丈な久子さんの伝記を、ときおり釈台を張り扇で、パンパン、パンパンと叩きながらの講演は当時の情景を目前に映しだしていました。

### 参加者の声

- 知らない前から出来ないと言っている自分が恥ずかしくなりました。頑張ろうと思います。
- 話を聞いて私も与えられているものに感謝し、精一杯頑張つて過ごそうと思います。
- 強く生きることの大切さと同時に弱い人もいて、その方にどう接するか、よく考えなくてはと、改めて感じました。

## 平成27年度 福岡市人権尊重週間入選作品

城南区内のみなさんの標語とポスターの入選作品を紹介します。

友達と つらい思いを  
ふきとばす  
別府小学校・5年 坪田 麗さん

手をつなぎ みんなで笑おう  
わっはっはっ  
城南小学校・6年 桑野 絹彩さん

見てるひと ゆうきをだして  
こえだして  
金山小学校・6年 松井 希葉さん

城南中学校・2年 中川 美桜さん

「聴くよ」  
君の事  
分かりたいから

別府小学校・6年 山田 萌さん

子どもの笑顔は  
世界の希望

城南中学校・2年 柿塚 琴水さん

同じ空の下

生きて 夢見る

城南中学校・2年 城後 早希さん

咲かせよう  
笑顔の花を

城南中学校・2年 中田 朱音さん

考えよう  
いろいろな人権

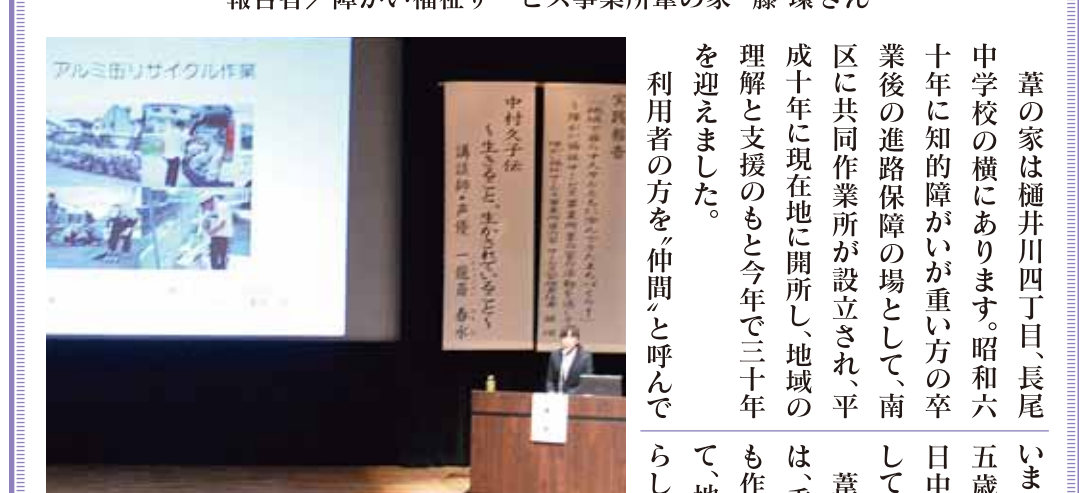
城南中学校・2年 白水 溪花さん

境界線って  
どう意味?

城南中学校・2年 立花 香乃さん

## 実践報告 ～障がい福祉サービス事業所 葦の家の活動を通して～ 「地域で暮らす人々とともに歩んできたまちづくり」

報告者/障がい福祉サービス事業所葦の家 藤 環さん



葦の家は樋井川四丁目、長尾中学校の横にあります。昭和六十年に知的障がい重い方の卒業後の進路保障の場として、南区に共同作業所が設立され、平成十年に現在地に開所し、地域の理解と支援のもと今年で三十年を迎えました。

利用者の方を「仲間」と呼んで

いますが、現在、十九歳から六十五歳までの五十四名の仲間が日中通って、作業や活動を共にしています。

葦の家が大切にしていることは、重度の知的障がいのある方も作業や生活、余暇などを通して、地域の中で生き生きと自分らしく、普通の暮らしが実現できるような支援を行うことです。

【編集後記】

新年を迎え「全世界でハンセン病制圧」という記事が新聞にありました。治療薬の普及で世界のハンセン病患者数は平成五年時点で約二百二十九万人から二十年后には十八万人に減少したそうです。一方、世界でも患者や回復者の差別的隔離、人権侵害が根強く残っていると掲載されていました。

今年度の七月のつどいはこのハンセン病について知っていた、少しだけでも偏見や差別がなくなればと実施しました。年一回発行の城南区人権啓発連絡会議だよりですが、人権について考えるきっかけとなり、一人でも多くの人に人権尊重の輪が広がっていくことを願っています。

### 参加者の声

- 日々の施設での出来事を誇張することなく、淡々と話される姿に心を動かされました。職員の方の頑張りや工夫がみえました。
- 地域の中で普通の暮らしを…共感しました。
- 二泊三日のUSJ旅行は感動しました。

### 普通の人々がキーワード

仲間たちからお願い「自分たちが動いたお金で、どこか旅行に行きたい」。新幹線でUSJに行くことに…「障がいがあるから出来ないではなくチャレンジしよう」を合言葉に、鉄道の乗り継ぎ練習など準備を重ねた結果、実現できたことは大きな喜びとなり、思いは次の旅行に…。藤さんのこの作業所への就職も「地域の中で普通の暮らしを」のフレーズに惹かれてきた。地域とともに歩んでいく葦の家のこれからの活躍が期待されます。